

第8期 第9回 静岡市行財政改革推進審議会 会議録

1. 日 時 令和元年10月18日(金) 9:00~12:00

2. 場 所 葵消防署 7階 71会議室

3. 出席者 【委員】

田形和幸会長、岩井泰次郎委員、植田眞委員、内山和俊委員、
小泉祐一郎委員、小島孝仁委員、坂野真帆委員、杉山茂之委員、
鈴木貴子委員、西尾真治委員

【行政】

大長総務局理事、岡山観光・国際交流課長、岩田歴史文化課長、
松浦都市計画課都市企画担当課長、安本交通政策課長、杉山市街地整備課長
他

〔事務局〕

初田総務課長、降矢総務課行財政改革推進係長、金原主査 他

4. 会議内容

- (1) 開 会
- (2) 現地視察
- (3) 諮問テーマに関する説明
- (4) 意見交換・論点整理
- (5) その他
- (6) 閉 会

審議会内容は以下の会議録のとおり

田形和幸会長：次第に沿って議事を進める。次第3の諮問テーマに関する説明について、最初に歴史文化施設の機能やネットワーク事業の状況について、所管課から説明をお願いしたい。

〈歴史文化課より説明：略〉

田形和幸会長：次に、観光政策事業の状況、東海道各施設の概要、駿府浪漫バスの運営状況等について、所管課から説明をお願いしたい。

《観光・国際交流課より説明：略》

田形和幸会長：次に、MaaSについて所管課から説明をお願いしたい。

《交通政策課より説明：略》

田形和幸会長：特に質問等がなければ次第の4、意見交換・論点整理に入る。先ほどの現地視察と所管課からの説明を通して皆さま様々な印象を抱かれたことと思う。今回は、諮問のテーマである『歴史・文化資源の連携と活用』による地域経済の活性化を実現するための議論のポイントを具体化していきたい。まず、前回の審議会や事前確認にて各委員から出た御意見等の整理について、事務局から説明をお願いする。

《事務局より説明：略》

田形和幸会長：ただいまの説明等も踏まえ、議論の柱とすべきポイントについて、具体的な取組等について意見はあるか。

小泉祐一郎委員：論点1の関係で、歴史文化施設を拠点として東海道などの他の資源へ誘うという点でいうと、やはりネットワークを結ぶのは人だ。確かに展示や解説も入るだろうが、他の観光施設等でもコンシェルジュ機能というか、時間が2時間あるが、ここから2時間で行けて、電車で帰るとしたらどこに行けばいいか。行くとしたらどういう手段があるかとか。そういう、ここの施設に来た人が次に行く所をどのように繋いでいくか。場合によっては次回また来てほしいということになるかもしれない。そのような点で、ビジターエリア、入り口に近い所に何らかの形でビジターセンター機能が必要ではないか。するが企画観光局とそういった案内機能を連携したり、駿府ウェイブのガイドが資料を置いたり、ある程度連携ができるようなブースが必要だ。組織同士が連携しようといっても、その人がそこで仕事ができる状態を作らないとうまくいかない。非常にうまくいっている他県の所を見ると、やはりそういうブースやコーナーが、そんなに立派なものではないが、そこでの連携ができる体制を作っている。あとは、連携するための協議組織を作ってやっていく。そういう連携を構築する体制が大事だと思う。それから、歴史のブランディングの関係で、中身に立ち入ってしまうのでどうかと思うが、今日拝見した石垣などの本物の資源をどうやって活かすか。石垣のミュージアムと銘打って出してもいいくらいのものであった。先程の戦国末期の屋敷もそうだが、本物の打ち出し方とか活かす方が重要だ。気になるのは、長い時間をかけて調査をしていかなければならないところ

があることだ。調査はもちろんやっていくが、今回も調査しながら見せる工夫をしていた
だいでいるので、そのところをもう少し踏み込んで、調査の途中段階である程度完成し
た段階のものを資源として売り出すような、ブランディングの方法としてそこをもう少し
踏み込んだやり方があるのではないか。論点7の関係では、交通アクセスで気になった
のだが、例えば清水港の場合も大型客船がついた場合に、いくつかの交通手段があるが、
大型客船に乗った段階でバスをチャーターして富士山に行ったり久能山東照宮に行っ
たりしている。歴史文化施設には観光バスがどういう形で来るのか。隣に3千平米程の民間
活用の土地が駐車場になっているが、その辺りがポイントだと私は思った。

田形和幸会長：今の小泉委員の質問について、観光客が車で来た場合に駐車場はどこを利用
するのか。

事務局：駿府城公園のエリアだと市民文化会館の駐車場が一番近くにある一般駐車場にな
る。

観光・国際交流課長：駿府城公園にお越しの方に駿府城公園専用の駐車場はない。今話があ
ったように最寄りの文化会館の駐車場あるいは街中の駐車場を個別にご利用いただい
ている状況だ。しかしながら、観光バスの駐車場については、歴史文化施設の傍らにあるも
のを暫定的に使っている。あそこの土地も一等地だから、今後、高度利用等を図る状況
の中では、当然新たな観光バス駐車場を探さなければならない。次の観光バス駐車場を目下
選定している状況だ。

小泉祐一郎委員：市の全体的な計画もあると思うが、暫定ということだが、あそこ以外の所
で観光バスの駐車場としての適地があるのかどうか。そこは懸念しているので、検討して
ほしい。

田形和幸会長：浅間神社に駐車場があるが、あそこには観光バスは入れると思う。そういう
連携はされていないのか。

内山和俊委員：八千戈神社の所に駐車場のスペースがあるのでそこに入れている。

内山和俊委員：私は観光ガイドをやっているが、色々なお客さんから意見を聞く。街中に、
例えば呉服町の通りにそういう案内のスペースがほしいなどだ。例えば駿府ウェイブの
建物は別の所の5階にあるが、街中の通りに面したところであれば、多くの人が寄ってそ
こでいろいろな相談がしやすいという意見を聞いたことがある。

植田真委員：駅に来た人がどこに案内所があるのか分からない。今は北側の少し下がった階
段の所にあるが、そこをなかなか見つけられない。もう一つ地下に市のスペースがあるよ
うだが、そこに行っても今は違うものが展示されている。新しい歴史文化施設ができて
も駅から降りた人がなかなかそこへダイレクトに行けないのではないか。駅の所に何らか
の出先が必要なのではないか。資料4-1にも書いたが、センターステーションとしてこの
文化施設を作るのならば、そういうサブの所を作っていかなければならないのではない
か。それからもう一点、夜の観光ということで、どこか行く所がないか、駅の近くのホテ
ルで観光客が探すようだが、なかなか行く所がないと聞いている。そこら辺でもうまく連

携がとれる形が望ましいのではないか。

田形和幸会長：先ほどの説明の中で、ボランティアの方がガイドとして歴史について説明することをやっていると思うが、夜にガイドはいないと思う。金沢にはガイドがいて、バスも回っていて、所々で降りるとそこに街並みの説明をする人や金沢城の中に入って説明してくれる人がある。今そういうことは市としてはやっていないと思う。植田委員がおっしゃったのは、せっかく来てくれているのに、日中はいいが、夜はどこにも行く所がないという話だ。

植田眞委員：そうだ。それから、夜に行く所があれば泊まる人が出てくるが、泊まらないでスルーしてしまう人が多くなるのではないか。

鈴木貴子委員：静岡駅には観光案内所がおそらく2つあると思う。英語の案内ができるのは静岡駅の北口だが、多くの外国人の方にとって、新幹線から降りて来てそこからすぐに見つけられないということが問題だ。さらに、静岡駅構内及びその周辺で大きなスーツケースを預かってくれる所やコインロッカー等の数が非常に不足している。日本人観光客も外国人観光客もともに、荷物を預けて観光に行きづらい。静岡駅の新幹線のホームを出た所の観光案内所の前にコインロッカーがあるが、結構混み合っていて、その他のコインロッカーをみんな探している。これから大道芸ワールドカップもあるから、全国から多くの方が静岡に降り立った時に荷物が置けないとなると、いろいろな意味での機会喪失になってしまう。荷物を置けないのだったら静岡に降りても仕方がない、お土産を買っても置く場所がないから買い物をしないでそのまま帰ろうという残念な結果にもなりかねない。もう一つ交通手段について、近年長距離バスでの移動が注目されている。東京であれば新宿駅前にバスタがある。静岡の場合、この遠距離バスを使った拠点が静岡駅と東静岡駅になっている。特に東静岡駅の北口だと、関西方面や北陸、福井県や金沢に行くバス、そして九州の福岡の方まで行くバスが発着している。駅の南口だと、関西系のバス会社のウィラーエクスプレスのバス停があり、静岡駅の北口にはJR 東海バスやJR バス関東、静鉄がバスを東京や関西方面に出している。長距離バスで移動されるお客様の場所がかなり散在している。静岡駅に降り立つお客様であれば情報が分かるが、東静岡駅の方にバスが到着した場合、お客様がそこからの情報を得ることができない。駅の南側にはグランシップという大きな集客できる場所があるにもかかわらず、静岡市の案内というものが駅の大きな掲示板だけになっているので、そこが残念だ。静岡駅の北口に関しては、静岡市も大きなイベントを色々とされているので、もう少しそこも含めて回れるような工夫をしていただきたい。

田形和幸会長：所管の方から何か補足はあるか。

観光・国際交流課長：夜の楽しみのことについてのみ御案内するが、静岡市としてもナイトタイムエコノミーあるいはナイトツーリズムは課題認識している。しかしながら夜の楽しみについては民間の多大な協力が必要になる。折しも今日午後1時半からしずぎんユーフォニアで全国夜景サミットが開催される。私どもが昨年誘致をして、たまたま今日が

その日だ。午後1時半から3時間程度会議を行い、夕方から日本平山頂でイベントを打つ。そういう取組を徐々に始めていることを御案内させていただく。

坂野真帆委員：ブランディングや価値を高めるところ、あるいは情報発信の所に関わると思うが、歴史を語る人材について、静岡の歴史で言うと、小和田先生の功績はすごく大きいと思っている。研究者という所だけでなく、歴史の権威ある方として、小和田先生がこう言うからそこへ行ってみようとか、こういう説は自分もそう思うとか、歴史は分からないことが多いから、研究者や関係の方々がおっしゃることを考えたりする中で自分で想像して、自分はこう思うという歴史観を持っていくというのが歴史が好きな方の醍醐味だと思う。静岡県は時代も古代から現代までいろいろな時代に歴史資源があるし、そういうものを活かしていくと言った時に、何かカリスマ的というか、この人がこういう風に言っているからそこに行ってみようとか、実際に見てみよう、この人から学んでみたいというような、そういう人材を持つことが大事だと思っている。そういう意味では、活用という事とはずれるかもしれないが、人材の確保や育成にも力を入れて、核となるような歴史の語り部を作っていくのがいいと思う。今の時代はSNSで情報を得る方が多い中で、個人的な発信でもインフルエンサーというような発信力があって動員力がある人材が生まれてくる時代だ。少しマニアックな歴史に特化して、歴史も例えば今川に特化してだとか、徳川に特化してだとか、何かそういう形で常に情報を発信していく方がいると、そこへ集まってくるというのが、殊に歴史においては多いのかなと思っている。そういうコミュニティを作っていけるようになると、動員力は上がってくるのではないかな。そういう柱になるような人たち、専門家というかそういう方たちを作っていくことにも力を入れていくといい。それが、今ある歴史に価値付けをして、それを活かしていくことに繋がると思っている。

杉山茂之委員：いろいろなコンテンツがある中で、どのように的を絞って外に発信していくか。いろいろなものがあるとなかなか、歴史に詳しい方は興味を持って来られるが、もう少し幅広く考えた時に、コンテンツがあり過ぎると何を見に来るかがなかなか伝わりにくいと感じている。一つの意見として、交通アクセスという意味ではレンタサイクルだ。パリやローマに行くと、いたる所にサイクルステーションがある。一律の金額になっていて、どこに乗り捨ててもいい。そのような整備がどこまでできるか分からないが、そうしたものを整備するというのは、何を見に行くかということとセットで考えていく必要がある。話は変わるが、せっかく来た人にお金を落としてもらい、泊まってもらうことがとても大事だ。青葉横丁のおでん街など食に関して魅力的なコンテンツがあると思う。週末に青葉公園でいろいろなイベントを毎週のように行っているが、以前シンガポールに行った時に、ホーカーズという屋台の大きな施設があって、そこで安い地場のローカルフードがたくさん食べられる。青葉公園に常設するのはなかなか難しいかもしれないが、そのようなものとセットにして歴史施設を見てもらうような仕掛けが必要ではないか。場所の問題やいろいろな問題があって、すぐには解決できるものではないが、何かうまく組み

合わせていかないと、多くの方々、特にインバウンドの方に来ていただくのは難しいのではないかと感じている。

岩井泰次郎委員：今日の見学でいろいろなものがあることが分かり改めて勉強になった。新しい施設の中に、先ほど小泉委員からコンシェルジュ的なものを置いたらどうかという話もあったが、まず北口の観光案内所が分からない人にあそこの新しい施設まで誘導するのは難しいだろう。来る方がインバウンド、あるいは新幹線を使って来るとなれば、本当は新幹線専用の改札を出たゲートの辺りにあればよいのだが。今はどうか分からないが、松坂屋の方に降りていく地下広場の所にサイネージがあったと思う。あれは市が設置したのか。インタラクティブで触れるようなものが置いてあった。新幹線を降りた所に観光案内のようなサイネージだけ置いて、あとはQRコードで読み取ってもらうとか、人に聞き取れば北口に行ってくださいという案内だけでもあればいいと思う。そこへ行けば詳しいことが分かるとか、そこへ行ってもらえさえすれば。案内所の対応時間の問題について、夜来ても誰もいないということであれば、今AIを使ったチャボットのようツールが発達している。横浜のゴミの相談なども24時間AIが答えてくれる。そういうものが24時間無人でできるようになっていけば、取りあえずその案内所に行くとか、宿泊の相談をするなど、簡単なコンシェルジュ機能は機械に24時間対応してもらってもいいのではないか。

西尾真治委員：ビジターセンターの機能は非常に重要だと思う。そこに行きさえすればいろいろな観光についてのヒントを得られる。ただし、資料1-1を見た感じでは、ビジターセンターのことも書いてあるが、全体的にどちらかというと提供者側の視点で書かれている。利用者側から見た時にビジターセンターにどういう機能がほしいのかを考えると、いろいろな情報提供をするのはもちろん必要だが、その中でコンシェルジュ機能的なものとか、モデルコースのようなものを提案してくれるとか、例えばこういう分野に興味があるのであればこのコースがよいとか。文化財の特別公開マップはすごくよい資料だと思うが、さらにこの中でこういうテーマに関心があればこういうコースがよいのではないかと、あと時間が2時間あるのであればこういうコースが回れるのではないかと、そういう提案をしてくれるところまで利用者ニーズに応えるような情報提供ができるのではないかと。さらに言うと、観光の一つの形として、「歩いて楽しめるまち」というのが概念としてあると思う。自家用車がなくてもビジターセンターに行くと、こういうところを回りたいということがあれば、それが自家用車を使わずに公共交通機関やレンタサイクルも含めて最適な交通アクセスが分かるようなもの。MaaSの話があったが、話を伺っている時に、観光ではなく市民MaaSから入ってくるという話があったが、私はやはりMaaSは観光にこそパワーを発揮するツールではないかと考えている。論点7と論点8を両方つないでいく役割があると思っている。こういう観光資源を回りたいと言ったときに最適な交通アクセスがMaaSによって提供されることになれば、論点7と論点8の両方をカバーする。ぜひ観光面でのMaaSの活用についても検討してもらいたい。あと

一点、今日見学で回って本物の迫力はすごいと感じた。ただ、例えば天守台についてもあれを復元することはできるかというとなかなかそこまではお金がかかって難しいと伺った。ジャストアイデアだが、ARとかVR、特にARという拡張現実があるが、それも全く架空の場所で拡張現実があっても迫力がないと思うが、実際に本物の天守台があった所でARによって当時の姿が画面を通して見ることができると、それは見た人にとっては価値のある、迫力のあるものになると思う。ARを組み合わせることによってブランディングということが検討できる可能性があると思う。

田形和幸会長：浪漫バスの話があったが、他の市町村に行くと1日券などがあるが、こうしたものはないのか。一部で静鉄などではあると思うが、昔100円で乗車できるバスがあったが、市民が普通のバスを使うよりこのバスを使った方が安いということで利用してしまい、なかなか運用上難しくなって、値段を上げたりした。1回200円ということだと、観光客は一カ所で降りてまた次に行く度にどんどんお金を払わなければならない。ここには周遊券のようなものはないのか。

観光・国際交流課長：浪漫バスについて、現時点では残念ながらフリーパスあるいは1日乗車券のようなものはない。しかし課題として認識している。今事業者とそれを作るように協議をしている最中だ。私どもは単独ではなかなかできないから、事業者の協力を仰いでいるところだ。

交通政策課長：先ほど委員の御質問の中に観光のMaaSの話があった。この辺のいろいろなところで始まっているものの、公共交通の移動手段を考えているが、御存知のように静岡には地下鉄がなかったり、まだまだ手段が足りていない。そこで、まずはその移動の手段を整えよう、いわゆるニーズから生じる手法手段を広く作ろうということで、11月からAI相乗りタクシーを1カ月間試行で始める。これは乗り合って、いわゆるバス+タクシー÷2、そんなような乗り物で、ドアtoドアで相乗ってタクシーというものを活用していこうというものだ。それから、いろいろなところにポートがある自転車のシェアサイクルが始まっているという話があったが、まさにMaaSの移動手段の一つだ。これについては来年からシェアサイクルを始めていく。レンタサイクルと合わせてシェアサイクルの導入を始めていく。まずは手段を多く皆さんに提供することから始めるというところだ。

小島孝仁委員：歴史文化遺産を活用して、まず、どうやって稼ぐかを一番に考える必要がある。稼ぐことには非常に意味がある。いろいろなものを維持していくということでも重要だ。今日、実際の天守台の史跡を見て本物の迫力はすごいと思った。あれを見て、実際のお堀の復元は事実上ほぼ不可能なのだと感じた。ではどうやって活かしていくかを考えると、あれをどうやって見せるかということだと思う。西尾委員もおっしゃっていたとおり、やはり最新のテクノロジー、古いものと新しいものをくっつけると見せ方も変わってくると思う。VRなどで見せたり、それから仮想現実とリアルをつなぐためには、もっと近くに行ってお堀に触れるような回廊を作っていくとか、あの上に鳥の巣のように橋

を渡して、上からも見られるようにするとか。お堀と一緒に富士山を見られるようにするとか。そんなように写真を撮りに行きたいと思う場所を作る。それだけではお金にならないので、その横にお金を落としてもらえる施設も必要だ。それがカフェなのか何かはまた考える必要があるとは思いますが。投資をしてそこでお金を落としていただく。お金を落としていただくというのは、市外、県外、国外の方がわざわざ訪れてお金を落としてもらうことが必要ではないか。料金体系も一律いくらというよりは、旅行者だとさまざまな方が来ると思うから、特別な体験ができればお金を払っていただけるのではないかと。料金設定はいくつかあっていいと思う。カップルで来た方たちに他の方たちと一緒に決まった時間帯で巡って料金を払ってもらうのではなく、例えばガイドも一人専属で頼んで、言語が英語だったらプラスでいくらとか、いろいろな旅行者に対応できるようにすることが必要だと思う。この写真を見ると分かるように、やはりライトアップ、ライティングの力はすごいと思う。ライティングで夜の滞在と宿泊者は増やせると思う。各ホテルに例えばインフォメーション認定試験のようなものを作って、その試験に合格するとそのホテルのフロントがインフォメーション代わりになる。そのホテルのフロントの入り口にインフォメーションのマークを付けて市公認であることを掲げたり、そういった形で夜のガイドはカバーできるのではないかと。それから杉山委員もおっしゃっていたが、コンテンツはいろいろあると感じている。いろいろあるからこそ威力が発揮できていない。例えば野球に例えると変化球をいろいろ投げられるピッチャーは大成しない。すべての変化球が一流なのは松坂ぐらいかなと個人的には思う。例えば野茂などはストレートとフォークだけで一流になった。何か一点突破していく方が世界から呼べる。いろいろなものを全部中途半端にやると全部が埋没してしまう。やはり投資というのは、やるのだったら本当に意味のある投資をして、それで稼いでくれる人が必要だ。私は市がどうやって稼ぐかといったらやはり不動産投資だと思う。ただ土地だけで貸すのは実際には儲からないので、ハードまで整備してあげる。事業者にそこで稼いでもらうアイデアを募り、ハード整備までしてあげて貸し、家賃収入を得る。それがシンプルな市の財政を補助するというか、そういう使い方になるのではないかと思う。それから移動に関してだが、各地にいろいろなものが点在しているが、そこまで行く公共交通手段と、そこからそのエリアをぐるっと回る手段はまた別で考えていく必要があると思う。広域で動いて、その目的地周辺を回るのに必要なのはロッカーと自転車だと思う。静岡駅の問題点は昔からロッカーがないことと、案内所が分かりにくいことだと感じていた。そこは本当に必要ではないかと思う。

最後に、ラグビーワールドカップについて、これは本当にプロモーションがすごかった。私はラグビーにそんなに興味がなかったが、ルールが分かって観たらこんなに面白いスポーツがあったのかと。野球こそ最高だと思っていたがラグビーもこんなに面白いのかと感している。ワールドカップ開催前にノーサイドゲームというドラマが放映され、そこにラグビー日本代表の選手が役者として出ていた。現実の今のラグビーの事業団の問題をかなりリアルにドラマで再現していたそうだ。あれでラグビーに今まで興味を持って

いなかった人たちに興味を持たせた。そこからワールドカップに入っていったということで、ラグビーに興味のなかった方をかなりの数でファンにしたという点では、歴史にそもそも興味のない人にどうやって興味を持たせるかということも非常に重要だと感じている。

小泉祐一郎委員：コンシェルジュについて、歴史施設がオープンした時に何が起こるか。県内の観光施設を見た時に、例えば掛川に花鳥園がある。そこに外国人観光客が静岡空港以外の空港を使って来る。昼の時間帯に東名高速道路を、外国人を乗せたバスが静岡を通り抜けてやたらと走っている。ちょうど昼食の会場がない。だから掛川花鳥園では、バスをそこに入れてもらい昼食会場を予約するというのが花鳥園の仕事になっている。以前ドイツの観光客を乗せたバスも、西から掛川を通り越して焼津さかなセンターまで行って、焼津さかなセンターで昼を取ってから、もう一回東名に乗って掛川に戻って花鳥園に入った。要は、東名高速道路で東へ向かって外国人観光客を乗せたバスが静岡を通り越してしまっている。中国の方の場合だと、豊橋駅から新幹線体験ということで、豊橋駅で一回降りて新幹線に乗せて、新富士で降りる。その間バスは空で走っている。そして、新富士からまたバスで富士山の方へ行く。新幹線体験は新幹線の乗降がしやすい場所で行うから、その場合には昼食は豊橋で取ったり、富士の方で取ったりしている。何が言いたいかというと、静岡市内の観光施設もそうだが、実際のコンシェルジュ機能としては、県内のいろいろな昼食会場等を使って観光バスを呼ぶことも必要だ。

昨年度テーマになった登呂遺跡についても、登呂遺跡に観光バスが来ていた一番の理由は、やまだいちさんがあそこの登呂遺跡の駐車場の北側で食堂をやっていて、観光バス2台が2回転できるだけの団体客向けの昼食を出していた。しかも東京や名古屋などの観光バス会社に対してプロモーションをかけて、ぜひうちに寄ってくれと言っていた。静岡県の特性として、昼食の機能を持てば実は観光バスが東名から降りてくる。焼津さかなセンターはそれで成功している。そういった意味でのコンシェルジュ機能というものを、歴史文化施設だけで持てとは言わない。ただ、歴史文化施設にはそういう電話が入ってくると思う。例えば金谷のお茶の郷博物館がオープンした時に何があったかというと、東京から来る観光バスに対して昼食とセットでどうするか、ということだ。そういう意味でコンシェルジュ機能というのは、単に市内の観光だけではない。下田の方の旅館では、横浜からクルージングで来たいからクルーザーをチャーターしてくれと言われて75万円のクルーザーを手配したりしている。伊豆の方では、旅館がそれぞれそういうコンシェルジュ機能を持っている。本当はそういう機能があると、観光バスが通り抜けずに静岡に寄ってくれる。掛川の場合だと、掛川グランドホテルが結婚式場をビュッフェスタイルの昼食会場として活用し、観光バスを停めて昼食で稼いでいる。静岡県内のホテルがみなそういう形で昼食を受け入れてくれるかというと、変動があり毎日観光客が来るわけではないからなかなか対応が難しいと思うが、焼津さかなセンターなどのように常態的に観光客が来るところと連携してやるという方法もある。

田形和幸会長：私もエコパにラグビーの試合を観に行った。妻はラグビーのことを知らなかったが、実際に試合を観たら次の試合も観に行きたいと言うくらいに興味を持った。だから、歴史の文化的なものの良さを本当に分かっていたら、来ていただけたと思う。その日の夜は静岡の街は本当に賑やかで、外国人の方も含めて宿泊客も多かったという。そういうのはイベントごとにあると思うが、いろいろとお聞きすると、せっかくやっているのに何となくつながっていないのかな、情報発信がうまく行っていないのかなと思った。今回初めてしずおか東海道まちあるきガイドブックというのを知った。もう少し私たち委員の中でもいろいろなネットワークを使って情報発信をしなければならぬと感じている。それから、静岡駅から降りて登呂遺跡にどうやって行くのか分かりにくいという話があったが、私もその時に初めて観光案内所が北口のあそこにあることを知った。やはりJR等と協力しながら案内所をうまく作るようなことをしなければならぬと感じている。

内山和俊委員：トイレの問題もある。浅間神社のトイレが老朽化していて、これから外国人観光客が来られる時に、体形が大きい方にとっては小さかったり、古くなっていたりするから、そこら辺を危惧している。そういう点では三保に新しくできたみほしるべはトイレも快適だ。トイレの問題は来られる方にとって快適に過ごせるかどうかに関わるから、少し検討していただきたい。

田形和幸会長：浅間神社についてはあそこにさやを作ったのは長谷通りの支店長の時に、せっかく浅間神社に来たのに静岡のお土産を買う場所がないということがあり、当時の宮司にあそこを貸してくれないかと頼んだ。今の宮司はせっかくだから有効利用したいと考えているようだ。駐車場の問題も、そういう所にバスを置いて回遊していただく。トイレの問題については、今月初めにイタリアに視察に行ったが、ヨーロッパではどこに行ってもお金を取る。ローマの駅でもミラノの駅でも公衆トイレに入るのに1ユーロ取る。コインを入れないとトイレに入れない。それが外国人にとっては当たり前ののだと思う。日本という文化の中ではなかなか難しいのかもしれないが、これからはそういう時代になってくるのかもしれない。そういう中で、市の財政において、稼ぐということよりも、そういう維持費については皆さんで負担していただくという時代になっていくこともあるのかなと思っている。

皆さんの御意見を事務局の方でまとめていただき、次回までに資料を作っていたらと思う。意見も尽きないかと思うが、これを持って本日の議事については終了し、第9回行財政改革推進審議会を終了する。

静岡市行財政改革推進審議会

田形和幸